

# DMARC集約フィードバックレポートが生成されない理由のトラブルシューティング

## 内容

---

[はじめに](#)

[バックグラウンド情報](#)

[トラブルシュート](#)

---

## はじめに

このドキュメントでは、DMARC集約フィードバックレポートが生成されない原因をトラブルシューティングする方法について説明します。

## バックグラウンド情報

アプライアンスは、ドメインベースのメッセージ認証、レポート、および適合性(DMARC)を使用して受信Eメールを検証し、DMARC集約フィードバックレポートをドメイン所有者に送信して、認証導入の強化に役立てることができます。これらのレポートはXML形式でGZipファイルにアーカイブされ、毎日送信できます。検証結果に関係なく、24時間ウィンドウに検証のインスタンスが少なくとも1つ存在する場合は、DMARC集約レポートが生成されます。

正常に生成されたレポートは、mail\_logs内で次のように確認できます。

2014年2月4日 ( 火 ) 00:00:00情報 : DMARC REPORT: Starting Aggregate report generation

2014年2月4日 ( 火 ) 00:00:05情報 : DMARCレポート : ドメインgmail.comの集約レポートが生成されました。

2014年2月4日 ( 火 ) 00:00:05情報 : DMARCレポート : ドメインexample.comのDMARCレポートをdmarc\_reply@example.comにディスパッチする、user@internaldomain.com

2014年2月4日 ( 火 ) 00:00:06情報 : DMARC REPORT: Completed Aggregate report generation

## トラブルシュート

DMARC集約フィードバックレポートが生成されない場合は、次の点を確認してください。

ステップ 1 : mail\_logs内で接続ホストに適用されているメールフローポリシーを特定し、Send

aggregate feedback reports within the DMARC Verification settings in this mail flow policyオプションが有効になっているかどうかを確認します。

ステップ 2対応するmail\_logの抜粋でDMARC検証結果を確認します。

DMARC検証に合格または失敗すると、集約フィードバックレポートが生成されます。

2014年2月3日 ( 月 ) 16:04:33情報 : MID 1122 DMARC:Verification passed.

2014年2月5日 ( 水 ) 23:59:33 Info: MID 1234 DMARC: Verification failed.

DMARC検証がスキップされた場合、集約フィードバックレポートは生成できません。

Sun Feb 2 21:45:32 2014情報 : MID 1010 DMARC: Verification skipped (No record found for the sending domain)

ESAはデータベースに書き込む前にDMARC検証データをバッファに入れ、レコードは15分ごとにデータベースに書き込まれます。DMARC検証がレポート生成スケジュールの近くで実行された場合 (たとえば、スケジュールが午前12時のMID 1234のサンプル)、このメッセージを翌日のレポートに含めることができます。

ステップ 3追加の要件として、送信側ドメインのDMARCレコードにmailto URIが設定されている必要があります。それ以外の場合、レポートは生成されません。ここでは、DMARCレコードのRUAタグ内の既存および存在しないmailto URIの例をいくつか示します。

<#root>

```
CLI> dig txt _dmarc.gmail.com
```

```
; <<>> DiG 9.6.-ESV-R3 <<>> _dmarc.gmail.com TXT
;; global options: +cmd
;; Got answer:
;; ->>HEADER<<- opcode: QUERY, status: NOERROR, id: 41375
;; flags: qr rd ra; QUERY: 1, ANSWER: 1, AUTHORITY: 0, ADDITIONAL: 0
```

```
;; QUESTION SECTION:
;_dmarc.gmail.com.          IN      TXT
```

```
;; ANSWER SECTION:
_dmarc.gmail.com.          1800    IN      TXT
```

```
"v=DMARC1; p=none; rua=mailto:mailauth-reports@google.com"
```

```
;; Query time: 35 msec
;; SERVER: 127.0.0.1#53(127.0.0.1)
;; WHEN: Tue Feb 18 13:48:02 2014
;; MSG SIZE rcvd: 103
```

<#root>

```
CLI> dig txt _dmarc.parallels.com
```

```
; <<>> DiG 9.6.-ESV-R3 <<>> _dmarc.parallels.com TXT
;; global options: +cmd
;; Got answer:
;; ->>HEADER<<- opcode: QUERY, status: NOERROR, id: 13092
;; flags: qr rd ra; QUERY: 1, ANSWER: 1, AUTHORITY: 0, ADDITIONAL: 0
```

```
;; QUESTION SECTION:
_dmarc.parallels.com.      IN      TXT
```

```
;; ANSWER SECTION:
_dmarc.parallels.com.     1800    IN      TXT
```

```
"v=DMARC1;p=none"
```

```
;; Query time: 56 msec
;; SERVER: 127.0.0.1#53(127.0.0.1)
;; WHEN: Tue Feb 18 13:47:36 2014
;; MSG SIZE rcvd: 66
```

また、DMARCフィードバックレポートを送信するための返信アドレスを設定するには、System Administration > Return Addressesの順に選択します。

- 設定の編集
- DMARCフィードバックの返信アドレスを有効な電子メールアドレスに設定します。
- 変更を送信し、保存します。

この設定により、DMARC集約フィードバックレポートが指定のリターンアドレスから送信されます。

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。